

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成27年11月5日 (2015.11.5)

【公表番号】特表2014-530052(P2014-530052A)
 【公表日】平成26年11月17日 (2014.11.17)
 【年通号数】公開・登録公報2014-063
 【出願番号】特願2014-531254(P2014-531254)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 5/151 (2006.01)

A 6 1 B 5/157 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 B 5/14 3 0 0 D

A 6 1 B 5/14 3 0 0 L

【手続補正書】
 【提出日】平成27年9月11日 (2015.9.11)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 4 9 】

試験ディスク部材 5 0 5 は、最上面 3 0 3、最下面 3 0 4 およびディスク縁部 3 0 5 を含む。試験ディスク部材 5 0 5 の直径は、1 5 から 2 5 ミリメートルの間、例えば 2 0 ミリメートルである。ディスク縁部 3 0 5 の高さと同じディスクの厚さは、0 . 5 ミリメートルから 1 ミリメートルの間である。孔 3 0 6 は、試験ディスク部材 5 0 5 の中心に形成される。この孔 3 0 6 により、試験ディスク部材 5 0 5 を軸 2 0 4 に取り付けることが可能になる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 6 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 6 6 】

カートリッジ 1 0 6 の内部に収容することができる試験ディスク部材の数、すなわちカートリッジ 1 0 6 によって行うことができる試験の回数は、カートリッジ 1 0 6 の高さ、および隣り合う試験ディスク部材の対応する部分間（例えば、上面間）の隔離距離の関数になることを理解されたい。より高いカートリッジにより、および/または試験ディスク部材の隔離距離の低減により、単一のカートリッジ 1 0 6 を使用して行うことができる試験の回数が増加する。